朝日 俳壇 歌壇

〈お城〉　岩尾恵都子

俳句時評　井上伝蔵の悲哀

岸本　尚毅

病む母と居るも楽しき年忘れ　逸井

家族が集う忘年の宴だろう。老母は病身だ。そんな母でも、否、だからこそ一緒に居ることが楽しい。「楽しき」の一語が何と生き生きとしていることか。

「逸井」は秩父事件以前の井上伝蔵の俳号だ。蜂起した農民軍の幹部だった伝蔵は、欠席裁判で死刑の判決を受け、北海道に逃亡。伊藤房次郎と名を変えて家庭を持ち、現在の石狩、札幌、北見の各市に住んだ。一九一八年に六十四歳で逝去。その直前に自分の素性を妻子に明かしたという。

秩父の旧家出身の伝蔵は俳句の嗜みがあり、北海道での俳号は柳蛙という。

雲に鳥入るや白帆のならぶ上　柳蛙

海に面した石狩の情景か。〈**名月や軒に光りし蜘の糸**〉〈**風もなき夜やしとしとと積る雪**〉〈**一ツ宛間のあるや雪の鐘**〉などは感性のよさと表現の素直さを感じさせる。いっぽう〈**思ひ出すこと皆悲し秋の暮**〉や〈**俤の眼にちらつくやたま祭**〉などからは、過去を秘めて生きる者の悲哀を読み取ることも出来よう。

伝蔵は秩父事件の前後で異なる土地に住み、異なる家庭、異なる生業、異なる俳号を持った。数奇な生涯を送った伝蔵だが、日々の暮らしを通じ、その心に寄り添い続けたのは俳句だった。

以上の句は十月刊の中嶋鬼谷「井上伝蔵の俳句」（朔出版）による。本書は俳句の面から「伝蔵」を描出した。前著の「井上伝蔵とその時代」の著者名は中嶋幸三（本名）だった。人間幸三として人間伝蔵を描いた著者は、今回は俳人鬼谷として俳人伝蔵に向き合った。（俳人）

風信

今井恵子著「短歌渉猟　和文脈を追いかけて」「短歌研究」での２年半にわたる連載をまとめ、巻末に「短歌における日本語としての『われ』の問題」を収録。（短歌研究社・3300円）

◇朝日歌壇　入選取り消し　17日付の歌壇に掲載した「手品終えた我を園児が取り囲む魔法使いの役降りられず」は二重投稿だったため、入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき１枚に１作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に２作品まで）。QRコードから。

永田和宏選

闇バイト、裏金などしか浮かばない流行語大賞今年の候補　（西海市）前田　一揆

北朝鮮兵十八人が脱走と聞けば眼に浮かぶロシアの曠野　（福島市）澤　正宏

食べ物が廃棄をさるる国で見る皿を差し出す無数の腕　（鹿嶋市）大熊佳世子

どちらかが滅びるまでは終わるまいあるいはどちらも滅びるまでか　（朝霞市）岩部　博道

赤字だが残してほしい羽越線海の入り日に染まる贅沢　（仙台市）沼沢　修

おやすみといふ言葉ならかけられるあなたが僕をふりむかなくても　（宗像市）新谷　休呆

それぞれの視界を避けてそれぞれが海を向いてるお昼の公園　（神戸市）田崎　澄子

☆親子五人揺れる雨戸を押さえてた台風銀座と呼ばれし頃は　（薩摩川内市）川野　雄一

ゴジラから追われる夢を見る妻がけさもゴジラに追われふきげん　（福津市）岩永　芳人

着ぐるみのゴジラに介助されておりそこまでやるか施設のハロウィン（和泉市）土居　栄三

【評】前田さん、嘆かわしい言葉ばかりが浮かぶ年の瀬。澤さん、北朝鮮派遣兵士たちの脱走の記事に、かつて見たロシアの曠野のあてどない広さが思われたか。大熊さんは、この豊かな国で、ガザの人々の悲惨を見ているだけの自分を恥じる思い。

馬場あき子選

かたつむり庭石に上り動かない億万年の夢を見る渦　（岐阜市）後藤　進

☆生徒らは「特攻」という演目を中学生らしくさらりと演じる　（東京都）尾張　英治

献体の母の遺骨をわたされる解剖をせし学生の手から　（今治市）気田由紀子

合宿の食事に子らの家庭知る「いただきます」の合掌ありて　（東京都）上原　厚美

珠洲焼の二重被災の職人ら火入れ成し遂げ窯場沸き立つ　（石川県）瀧上　裕幸

鳩は鳩、かもめはかもめで群れ集ふ手賀沼に吹く木枯らし寒し　（小平市）真鍋　真悟

生きのびる力は不思議ヒヨドリは竜の渡りとなりて海越ゆ　（北九州市）嶋津　裕子

鹿と兎の切手貼りたす葉書なり秋風さむく霜月に入る　（つくば市）橋本美知子

☆どこまでもこのまま走っていけそうな気がするリレーで三人ぬかす　（奈良市）山添　聡介

さらっさらの秋の空気にのせられて軽いリズムの新しい靴　（福井市）佐々木祐香子

【評】第一首は庭の立石の上に上って動かないかたつむり。渦巻形の殻を背負っているのも意味ありげ。いったい何億年前からの遺伝子の夢を伝えようとしているのか。第二首は演劇の場。中学生のもつ特攻の認識の簡潔さがせつない。

佐佐木幸綱選

囮鮎商う店も戸を閉ざし冬となりゆく雨の山里　（八代市）桑田美智代

銀行の顔認証にエラー出て「わたしは誰？」と思ふ一瞬　（諏訪市）矢崎　義人

直葬といふ新しき弔ひがコロナのうちに市民権得る　（横浜市）西前　敦子

腕章の若きら争うように吾を待ち構えおり出口調査に　（光市）永井すず恵

☆生徒らは「特攻」という演目を中学生らしくさらりと演じる　（東京都）尾張　英治

☆どこまでもこのまま走っていけそうな気がするリレーで三人ぬかす　（奈良市）山添　聡介

画家からの季節の便りもらうごと高階秀爾の連載読みき　（長崎県）稲垣　妙子

茶の花を愛でて弁当食ふ畑お茶もこの畑で摘んだお茶　（福知山市）杉森　大介

憧れの店の紙袋引っさげてひっひっひっと坂道のぼる　（東京都）井上　智景

☆親子五人揺れる雨戸を押さえてた台風銀座と呼ばれし頃は　（薩摩川内市）川野　雄一

【評】第一首、鮎釣りが終わるといよいよ本格的な冬がやってくる。囮鮎は友釣り用の鮎のこと。第二首、「わたしは誰？」のユーモアに注目。第三首、「直葬」とは通夜や告別式は行わず火葬だけ行う新しい葬儀のかたちをいう。

高野公彦選

姉妹の髪お揃いに結う母の居て哀しみのガザに小さな日常　（茨城県）原　里江

スマホをば須磨浦と書き来る友のあり無聊をかこつ源氏に合ふとや（名古屋市）前川　和彦

インドネシアの若者二人村に来て休耕田に野菜育てる　（岩国市）木村　桂子

闇バイトは「楽で簡単高収入」我は真逆の作歌楽しむ　（八王子市）額田　浩文

寅さんもまたハマちゃんも居ぬ令和笑ふ日の減り不安の日は増す　（加東市）藤原　明

亡き人の一度も夢に出でざるは得仏なりしや淋しくもあり　（下野市）若島　安子

午前中だけの運動会となるコロナの後の戻らないもの　（奈良市）山添　聖子

不登校34万この国は何かおかしい少子化なのに　（佐伯市）川西　敦子

朝霧にシルエットを為す八甲田遠き日に見し二上山思ほゆ　（五所川原市）戸沢大二郎

ひと筋の煙に誘われ行きゆけば里山ひそと黄葉しており　（太田市）川野　公子

【評】１首目、この「小さな日常」が一日も早くガザ全体に戻ってくることを願う作者。２首目、須磨の海辺に謫居の身を嘆く光源氏のことを考えた友のユーモア。３首目、村にとっての救世主の二人。４首目、苦労しつつ無収入の道を歩む楽しさ。